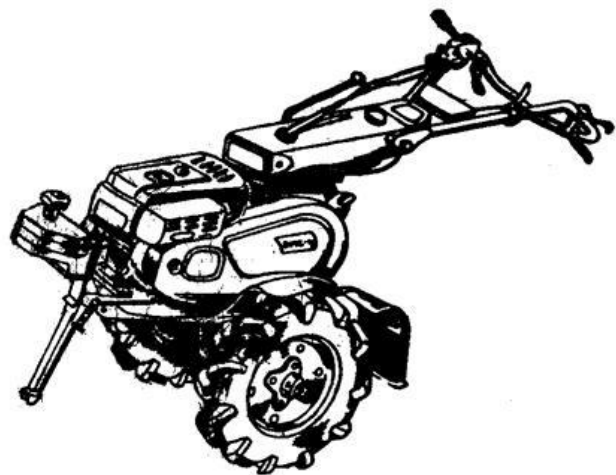


マメトラテラー

DMC-W

霧島

★取扱説明書



マメトラ

マメトラ農機株式会社

はじめに

このたびは、マメトラ「DMC-W型」をお買いあげいただきまして誠にありがとうございました。

本機は、農家の省力機械の製作販売に多年の経験を持つ弊社が、高度の技術を結集してお手許に送りましたティラーです。

お買いあげになりました本機の性能、耐久性、そして操作の簡単さは、必ずやご満足いただけるものと確信致しております。

この説明書は、あなたの「DMC-W」をいつも故障なく、いつまでも最良の状態で、本機の性能を発揮させ、ご活用していただくために、簡単な注意点をやさしく説明してありますので、本機のご使用前には、よくご熟読の上、いつも正しい取り扱いをして、いただくようお願い致します。

◇ 目 次 ◇

	ページ
1. 特長	2
2. 仕様及び速度	3
3. 各部の名称	4
4. 運転前の注意	5
5. 潤滑油	6
6. 本機各部の構造と調整	8
7. 基本農作業	14
8. 作業終了後の手入れ	15
9. 安全作業の為の心得	16

1. 特 長

1. 本機は軽作業から重管理作業まであらゆる作業が出来る管理機の決定版です。
2. エンジンは今までの管理機では考えられない強力 6.5 PS を搭載しており、クリーナーもサイクロン式を採用しておりますので余裕のある作業が出来ます。
3. 変速は前進 6 段、後進 2 段の W テンション方式でミッションはオールギアですから各作業に最適の速度が得られます。
4. サイドクラッチ付ですから運転が楽です。又その他の操作も簡単で使いやすく婦人でも容易に運転出来る手頃な機械です。
5. ハンドルは各作業に応じて上下左右調節の他、ハンドル回動（180° 旋回）がワンタッチで操作できます。
6. チェンジレバーはハンドル回動に合わせて自由に廻すことができどの位置でも手元操作が可能です。
7. エンジンからの伝導はもちろん動力取出軸も完全にカバーされ安心して使用できる様にされた安全設計の機械です。

2. 仕様及び速度

(1) 仕様

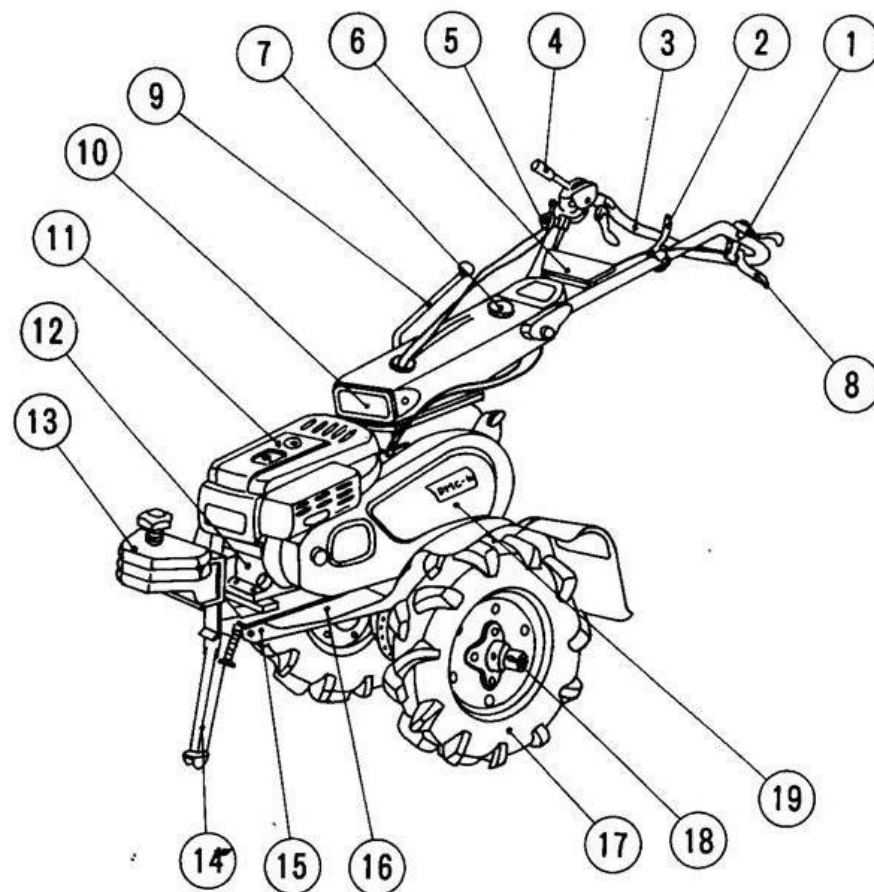
項 目		仕 様		項 目	仕 様
名 称	マメトラティラー	変速	ベルト変速	2 段	
形 式	DMC-W		ギヤ変速	前進 3段 後進 1段	
全 長	1650mm	主クラッチ		ベルトテンション	
全 巾	640mm	操向クラッチ		ボール スプライン式	
全 高	1060mm	標準タイヤ		400-9	
乾燥重量	120kg	車 軸		31φ	
エンジン	名称形式	G4L		ホイールチューブ	40φ
	方 式	空冷4サイクル		ハンドル形式	回動式 ループハンドル
	排 気 量	236cc		ハ ン ド ル	回動 ワンタッチレバー
	連続定格出力	4.5 PS		調 節 方 式	上下 菊座締付方式
	最大出力	6.5 PS		ハ ン ド ル 調 節 能 力	180°回動・左右 18°
	エアクリーナー	サイクロン式		変 速 レ バ ー	手元操作 (回動時手元操作可)
	燃 料 容 量 タンク	無鉛ガソリン 3.6ℓ			
	始 動 方 式	リコイルスターター			

(2) 速度

	ベルト 変速	変速 位置	車 速
前進 1 速	低	F ₁	0.26 m/s
" 2 "	高	F ₁	0.65 "
" 3 "	低	F ₂	0.91 "
" 4 "	低	F ₃	1.50 "
" 5 "	高	F ₂	2.29 "
" 6 "	高	F ₃	3.79 "
後進 1 速	低	R	0.21 "
" 2 "	高	R	0.53 "
PTO	L	低	700 rpm
rpm	H	高	1766 rpm

(注) ハンドル回動の場合はF₁ がRに
RがFになります。

3. 各部の名称



No.	名 称
1	スロットルレバー
2	ハンドル回動レバー
3	ハンドルパイプ
4	主クラッチレバー
5	ライトスイッチ
6	工具箱
7	燃料タンクキャップ
8	サイドクラッチレバー
9	チェンジレバー
10	ライト
11	ボンネット
12	エンジン
13	ウェイト
14	スタンド
15	シャーシーフレーム
16	フェンダー
17	タイヤ
18	ホイールチューブ
19	ベルトカバー

4. 運転前の注意

ティラーの性能を快適に保つためには日頃の点検、整備、調整が、機械の寿命に大きく影響します。
次の点にご注意ください。

- (1) 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検してください。なお10～20時間使用後に各部の増し締めを行なってください。
- (2) 各注油個所に指定のオイルが適正量入っているか点検してください。輸送中の油洩れ防止のため油が入っていない場合があります。
- (3) チェンジレバー、クラッチレバー、スロットレバー等が正しく作動するかを確認してから運転を始めてください。
- (4) チェンジレバーは必ずクラッチを切ってから操作してください。チェンジレバーが入り難い時はレバーを無理に操作しないで、主クラッチレバーを一度入れて確実に切ってから行ないますと容易に入ります。
- (5) 新らしい機械は最初2～3時間は無理な運転を避けてナラシ運転をしてください。
- (6) 運転時に異常音または異常な発熱はないか点検してください。

5. 潤 滑 油

1. エンジン

別冊のエンジン取扱説明書を御覧下さい。

2. ミッションケース

SAE 90番の良質ギヤーオイルを使用して下さい。

注油は右側、注油口から規定量 (2.3ℓ) 入れて下さい。

注油口より油面が見える程度が適当です。〔5-1図〕

油を抜く時は排油口より抜いて下さい。〔5-2図〕

【注意】

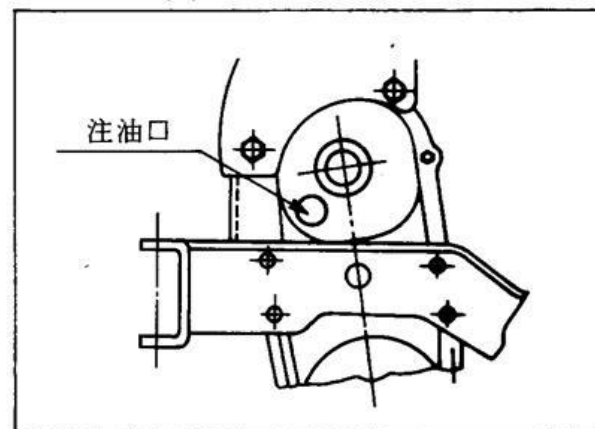
ミッションケースのオイルは最初の10～20時間使用したら一度交換して下さい。最初は初期摩耗がありますので早めに交換して下さい。またその後は、年1回か2回交換して下さい。長く使うと老化して油としての用をなくします。

3. 各摺動部

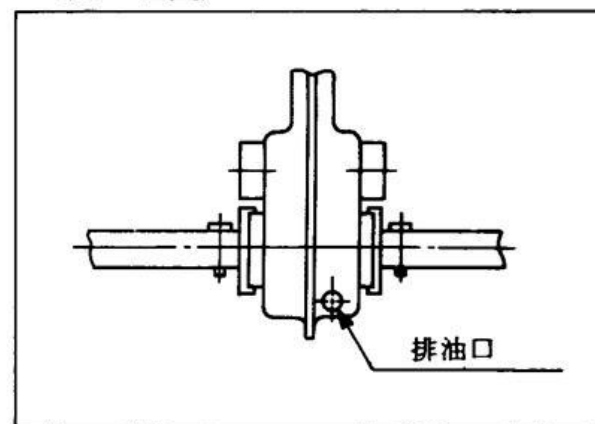
各摺動部にはギヤーオイル、又はモーターオイルを適宜滴下して下さい。また車軸には必ず油をつけてホイルチューブを取り付けて下さい。

各ワイヤーにも時々注油して下さい。

〔5-1図〕



〔5-2図〕



4. ^ミロータリーミッションケース（ロータリー付のみ）

〔5-3図〕 矢印の注油プラグをはずしてギヤオイル S A E 80 番または 90 番を約 1.6 リットル注油してください。

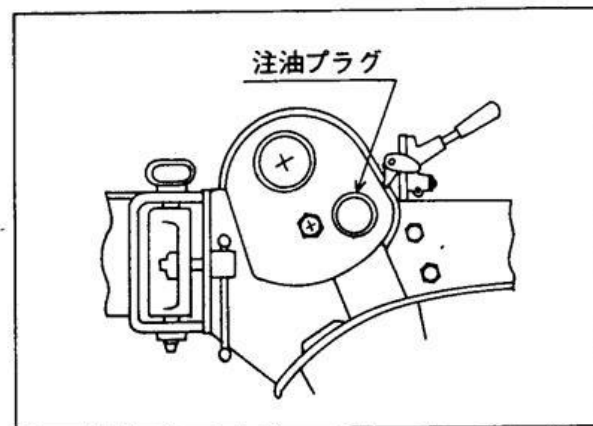
5. オーバードライブプーリー

トレーラー作業で約 100 時間毎にベルトカバーを外し、〔5-4図〕 矢印のグリスニップルより良質のグリスを 5 ～ 6 回注入してください。

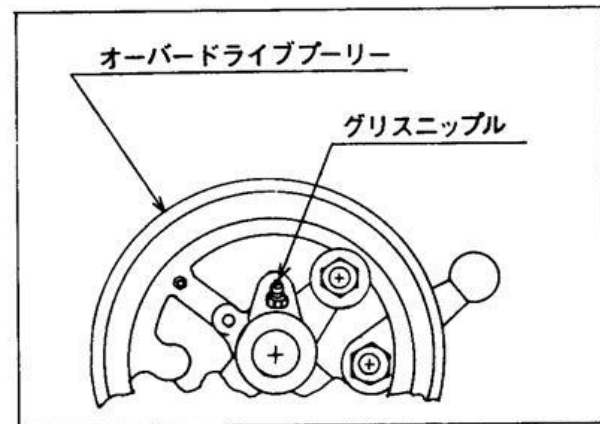
6. ハンドル回動部

ハンドル回動部のピン、ピン穴及び座金に時々グリスを塗布して下さい。

〔5-3図〕



〔5-4図〕



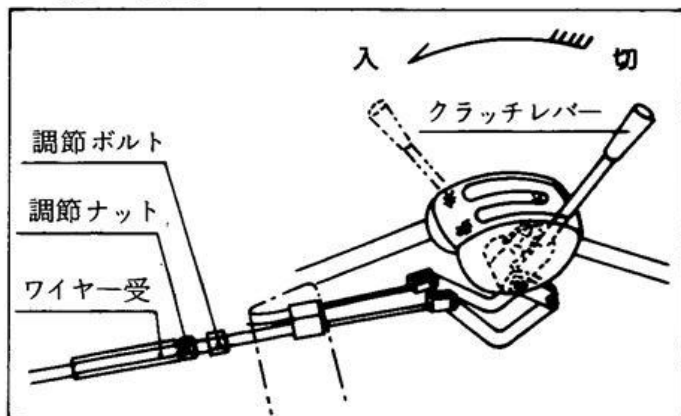
6. 本機各部の構造と調整

1. 主クラッチ

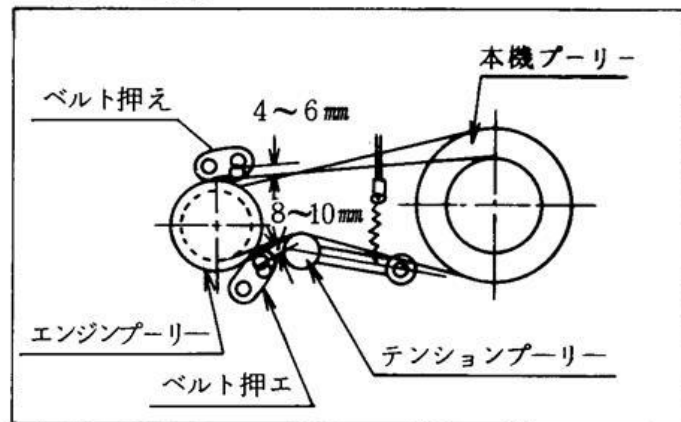
主クラッチレバーを前方に倒すと、クラッチが入ります。〔6-1図〕

【調整】 クラッチはベルトの緊張によって行なわれますので、この調整には特に気をつけて下さい。ベルトの張りが弱いとベルトが早く傷み、動力の伝達効率が悪くなります。張りが強いとクラッチが切れず大変危険です。クラッチを入れてもベルトの張りが弱い場合には、ワイヤー調節ナットを緩め、ワイヤー調節ボルトで調節します。それでも出来ない場合にはエンジン取付ボルトを緩め、エンジンを前方に移動させてベルトの張り具合を調整します。ベルト押えはクラッチを切った時にベルトがプーリーの溝に浮いている様に、又、クラッチを入れた時にベルトとベルト押えの隙間が上側4～6mm、下側8～10mmになる様にして下さい。〔6-2図〕

〔6-1図〕



〔6-2図〕



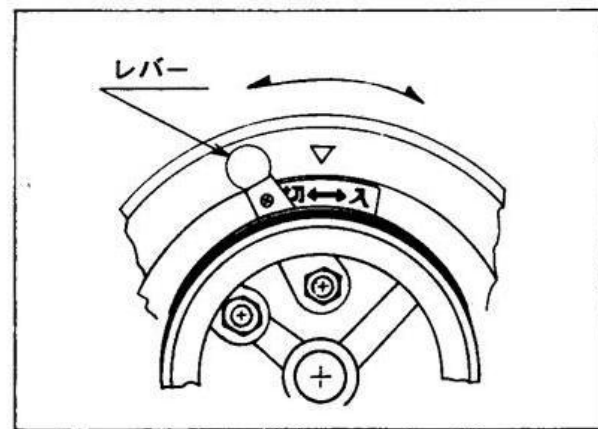
2 オーバードライブ（自動増速装置）

当社技術陣の成果による画期的な特許機構で、主軸プーリーはオーバードライブ（自動増速装置）が装着されています。

エンジンに無理を与えず円滑に変速を行なう機構ですが反対に急坂を下る時のようにエンジnbr레이크を働かせる必要な場合は、ベルトカバーを外し、〔6-3図〕矢印のレバーを㊦の位置にしてください。オーバードライブの動きが止まりエンジnbr레이크がききます。

特にロータリー作業の場合、切替レバーの軸とプーリー側の▽印が合った位置でレバーを㊦にしてください。

〔6-3図〕



3. 変速機構

チェンジレバーは手元操作になっております。前進3段後進1段の変速ができ、更にベルト変速により前進6段後進2段の変速になります。〔6-4図〕

チェンジレバーの操作は必ず主クラッチを切ってからして下さい。

チェンジレバーは元部を持上げ、適当な位置に回転し、レバーを放すと固定できます。

ハンドル逆転（エンジン側にハンドルを回転したとき）で作業の場合はレバーをロックの位置にし、チェンジがF₃、F₂に入らないようにして下さい。

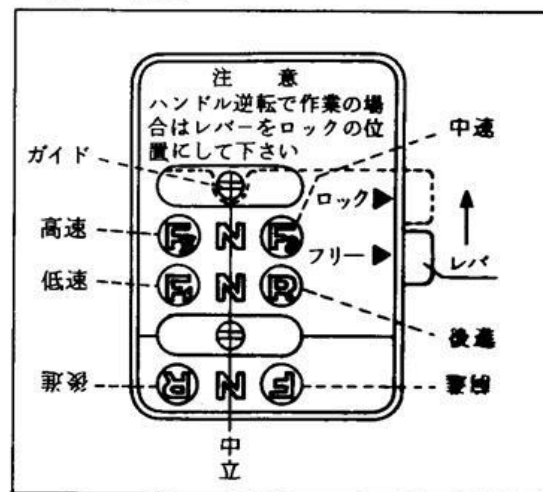
4. スロットルレバー

ハンドル左側握部についています。〔6-5図〕

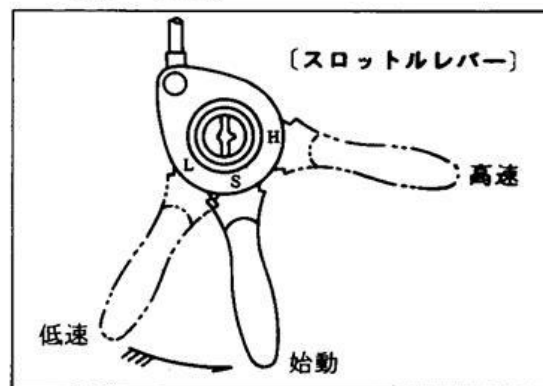
レバーを内側方向に廻すとエンジンの回転が上り、馬力が出ます。外側に戻しますと回転は下がります。

又、始動的にはレバーを「S」の位置にしてスタートして下さい。

〔6-4図〕



〔6-5図〕



5. サイドクラッチ

サイドクラッチはボールスプライン式で、サイドクラッチレバーはハンドルの握り部に取り付けられて操作しやすく軽く切れるのが特徴です。

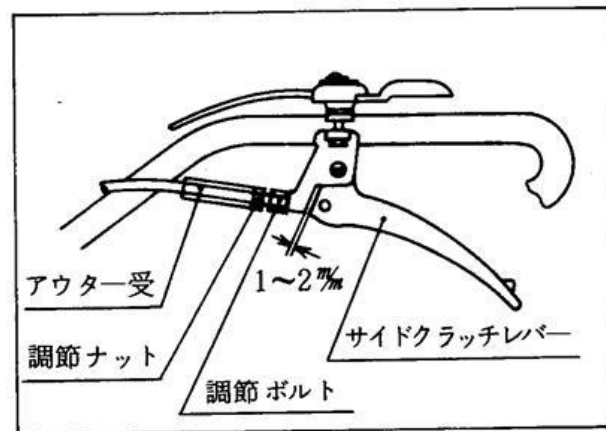
サイドクラッチレバーを操作し、機体が軽く押し引きできるかを確認します。サイドクラッチの調整は調節ナットを緩め、調節ボルトを廻すことによりアウターの長さを変えて行います。〔6-6図〕

レバーつけ根の所の遊びが1～2mmになるよう調整して下さい。調整が終わったら調節ナットを廻して調節ボルトが緩まないように締めて下さい。

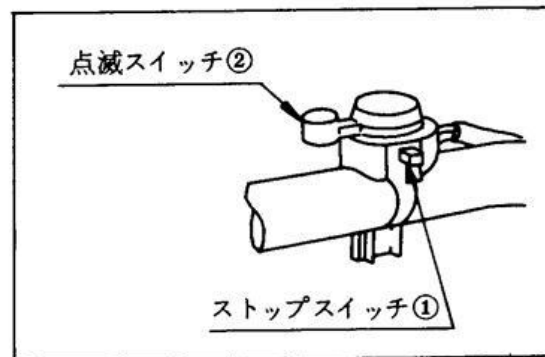
6. ライトおよびエンジンスイッチ

エンジンをストップさせるときは〔6-7図〕①のボタンを押して下さい。またライトの点滅は②のボタンを内側に押して下さい。ライトが点きます。消すときは0の位置にもどします。(点灯性能 6～8V15W)

〔6-6図〕



〔6-7図〕



7. ハンドル [6-8図]

④ 上下

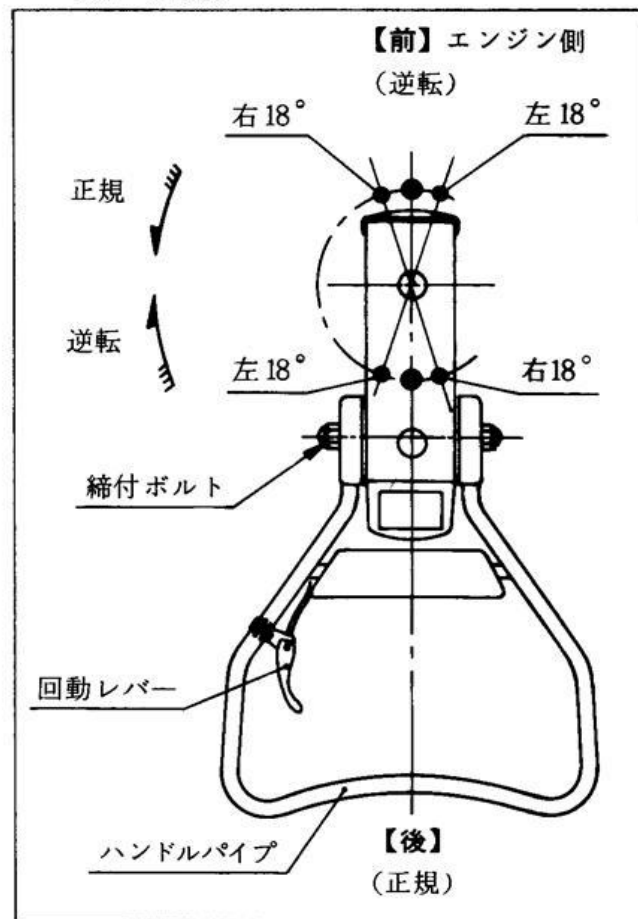
上下調節はループハンドル支点、左右の締付ボルトをゆるめ使用しやすい位置に調節して締付けます。

⑤ 回動

前後、左右の回動は、ハンドル左側の回動レバーを握って行います。レバーを放すと、前後左右各 18° の位置で固定します。

- 1) ハンドルをエンジン側に回動するとサイドクラッチが左右逆になりますのでサイドクラッチワイヤーを左右入れ替えて下さい。回動方向は必ずベルトカバー側に回します。
- 2) ハンドル回動時は主クラッチワイヤー、スロットルワイヤー、サイドクラッチワイヤー、などのワイヤー類に無理しないよう注意して下さい。

[6-8図]

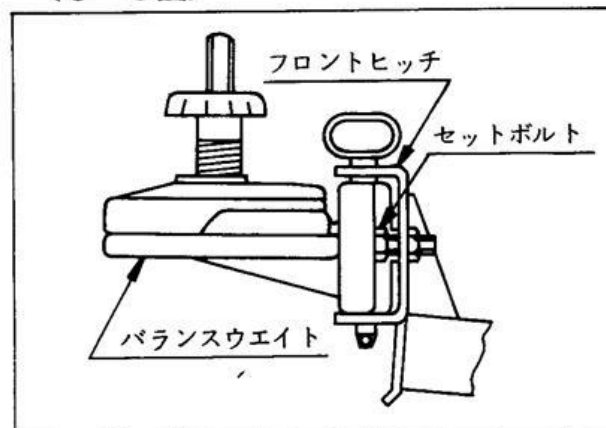


8. バランスウェイト

バランスウェイトはアタッチメントの種類や、作業条件により本機のフロントヒッチに取り付けけん引力を強める動きをします。

〔6-9図〕 キングピンで取り付け、ウェイト固定ボルト2本で固定してください。

〔6-9図〕

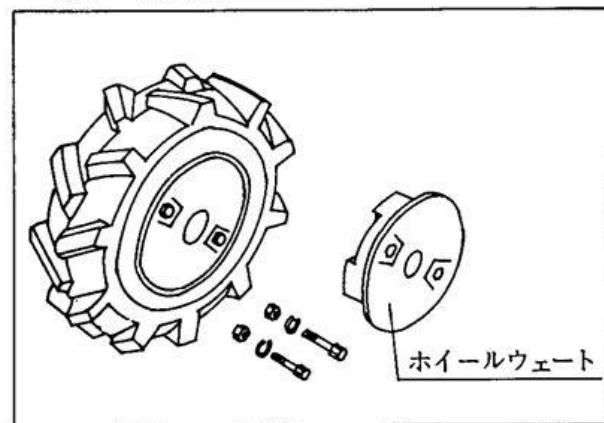


9. ホイールウェイト (特別注文品)

450-10用 重量 15kg

犁耕の場合牽引力を増すためにタイヤホイールに装着します。 〔6-10図〕

〔6-10図〕



7. 基本農作業

(1) 耕起、耕耘作業

本機に25R又は25RVロータリーを装着すると大型耕耘機なみの作業がおこなえます。

犁による耕起作業の場合は、兼用犁、湿田犁などの中から土地条件に合わせて使用して下さい。

(2) 中耕・除草作業

ゴム車輪・中耕車輪・カルチ車輪・除草ローター各種をホイールチューブに取り付け、中耕ロータリー・フロントロータリー・抵抗棒などをヒッチに取り付けて作業をおこないます。

(3) 碎土・代掻作業

ロータリー、又は水田車輪か碎土車輪とレーキなどでおこなうのが普通で作業中の旋回の際は何度も同じ所を通らない様にするのが「こつ」です。

(4) 葉たばこ一貫作業

本機は特に葉たばこ作業に威力を発揮いたします。

耕耘、整地はもちろん土壤消毒、うねもり、マルチ、土寄せ、残幹処理まで巾広い作業がこなせます。

(5) 運搬作業

ヒッチにトレーラーを装着すると快適な運搬作業が出来ます。

8. 作業終了後の手入れ

- (1) 作業終了後は充分手入れを行なってください。機械の寿命に著しく影響するばかりでなく後日の作業に気持よく、すみやかに取りかかれ、能率があがります。

特にエンジンのリコイルスタータの金網部、およびファンカバー内冷却部ファン部にゴミや泥がつまりますとエンジンの冷却不足となり、焼付き等の事故を起すことがあります。代掻作業後は必ず点検掃除を行なってください。

- (2) 各回転部分、摩擦摺動部分などには、充分注意して錆ない様にしてください。

- (3) 作業終了後格納の際は必ず燃料コックを「閉」の位置にしてください。

- (4) エンジンオイルの交換は作業終了後エンジンが暖かいうちに行なってください。

9. 安全作業の為の心得

- (1) 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないで下さい。
- (2) 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や、頭髮・手拭等が巻き込まれない様にして下さい。
- (3) 作業前には、常に正常な機能が発揮できるように、各部の点検整備に心掛けて下さい。又、作業後にも次の作業のために、点検整備を実施して下さい。
- (4) 機械の点検調整や、草の巻付を除去する作業は、必ずエンジンを止めてから行なって下さい。
- (5) 作業機の着脱は、できるだけ平坦な場所で行なって下さい。
- (6) エンジンを始動させる場合は、必ず主クラッチが「切」、チェンジレバーが中立「N」の位置にあるかを確認してから行なって下さい。
- (7) 燃料を給油する場合は、エンジンを停止し、火気は厳禁のこと。特に、くわえタバコでの給油は絶対にやめて下さい。
- (8) 作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないで下さい。特に、子供には注意が必要です。
- (9) 作業中は、機械の周囲に注意し、安全を確認して下さい。特に、バック作業時には、足元の注意が必要です。また、バック発進時には、ハンドルが取られやすいので静かに発進して下さい。

- 00 ハウス内の作業や、屋内での点検整備では、排気ガスがたまりやすいので、換気には十分な配慮が必要です。
- 01 エンジンのマフラーは、非常に高温になりますので絶対に触れないで下さい。また、機械におおいをかける場合は、マフラー等の高温部が完全に冷却した後で行なって下さい。
- 02 定置作業の場合等にベルトカバーを外して作業機をセットする時は、周囲に柵等を設け、手等がまちがって触れる恐れがないようにして下さい。
- 03 機械を移動する時には、必ず作業機の回転は止めて行なって下さい。
- 04 下り傾斜での方向転換は、平坦路面と異なり、サイドクラッチを切った反対側に回りますから、平坦地以外でのサイドクラッチ操作は避けて下さい。